

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	生保内公園つつじ祭り開催費補助金					
担 当 課 係 名	観 光 課		観 光 係		作成者	藤岡 純
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち				総合計画の ページ
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし				
	主要施策	テンミリオン計画の推進				29
予 算 費 目	一 般 会 計		7 款 商 工 費	1 項 商 工 費	3 目	観 光 費
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度			新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	仙北市補助金等交付規則					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象（誰のため・何を）	「レンゲツツジ」の群生を誇る生保内公園の優れた景観の宣伝に努め、観光客の誘客を図る。
事業の目的・意図（どういう状態にしたいのか）	生保内公園の利用を促進するとともに、市内外の交歓を図り、市街地の観光振興と地域の活性化の向上を図る。
事業の内容（どのような業務、活動を行うのか）	5月下旬から6月上旬を祭り期間とし、郷土芸能やお茶会、宝さがし大会などの催し物を開催し、観光客の誘客を図る。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	観光客数	目標	人	10,000	10,000	10,000	
			実績	人	9,600	10,000	10,500	
			達成度	%	96.0%	100.0%	105.0%	
	成果指標	観光客数対前年比	目標	%	100.0	100.0	100.0	
			実績	%	98.0	104.2	105.0	
			達成度	%	98.0%	104.2%	105.0%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				150	120	120	
	人 件 費 (B)		—		79	81	79	
	職 員 数		—		0.01	0.01	0.01	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				229	201	199	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				229	201	199
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		24	20	19
市民1人当たりのコスト(円)		—		7	6	6		

【事務事業の今までの成果】

生保内公園の優れた景観の宣伝に努め、観光振興と地域活性化の推進のほか、景観の保全や美化の推進が図られた。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	特になし
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	地元の方々に構成された実行委員会であり、各種行事を実行委員会主導で行っており、地域の活性化に寄与している。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	行事の新鮮さや独創性に欠けてきている。 若手実行委員の加入活動
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

限られた予算ではあるが、継続して効果のある行事の検討が必要。また、更なる誘客を図るうえでもマンネリ化とならない行事の検討が必要である。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	当初の事業目的とイベントの現状に乖離が見られます。補助金支出の必要性・事業効果について再検討が必要と考えます。

一次評価診断図

